

地域の所得循環構造①

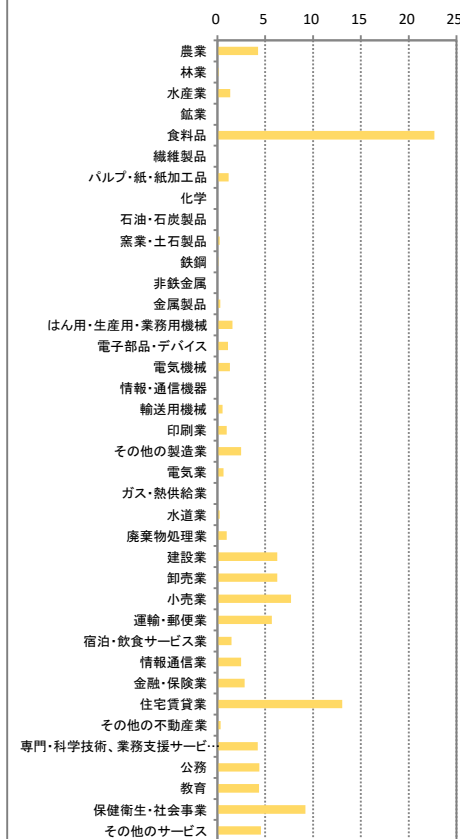
伊予市総生産(／総所得／総支出)1,127億円【2015年】

フローの経済循環

生産

産業別付加価値額

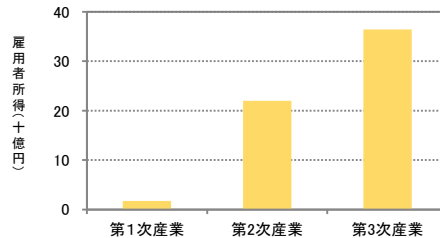
付加価値額(十億円)



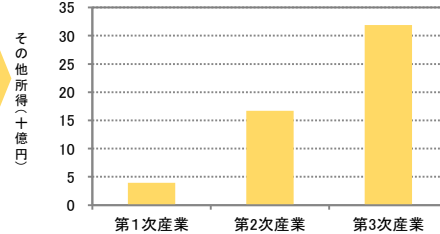
再投資拡大

分配

雇用者所得(602億円)

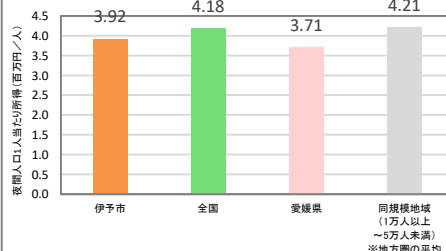


その他所得(525億円)



注) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、税金等が含まれる。

夜間人口1人当たり所得



支出

消費

1,028
億円

純移輸出

-166
億円

移輸出

1,180

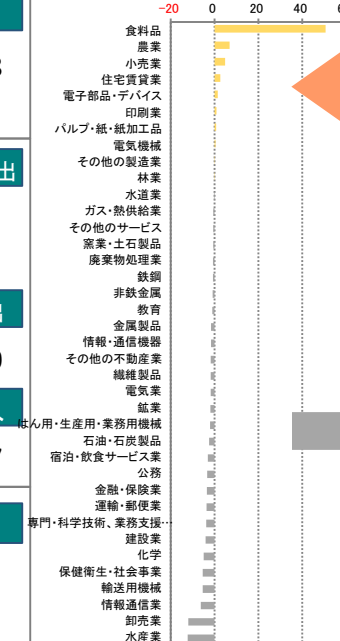
移輸入

1,347

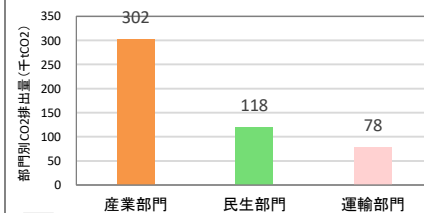
投資

266
億円

純移輸出(十億円)



CO2排出量



地域外

民間消費の流出：
約39億円
(消費の約3.8%)

所得の獲得：

食料品、農業、小売業、住宅賃貸業、電子部品・デバイス、印刷業、パルプ・紙・紙加工品、電気機械、その他の製造業、林業

エネルギー代金の流出：

約62億円 (GRPの約5.5%)

石炭・原油・天然ガス：約16億円

石油・石炭製品：約24億円

電気：約17億円

ガス・熱供給：約5億円

注) 石炭・原油・天然ガスは、本データベースでは鉱業部門に含まれる。
注) エネルギー代金は、プラスは流出、マイナスは流入を意味する。

民間投資の流出：

約51億円

(投資の約19.0%)

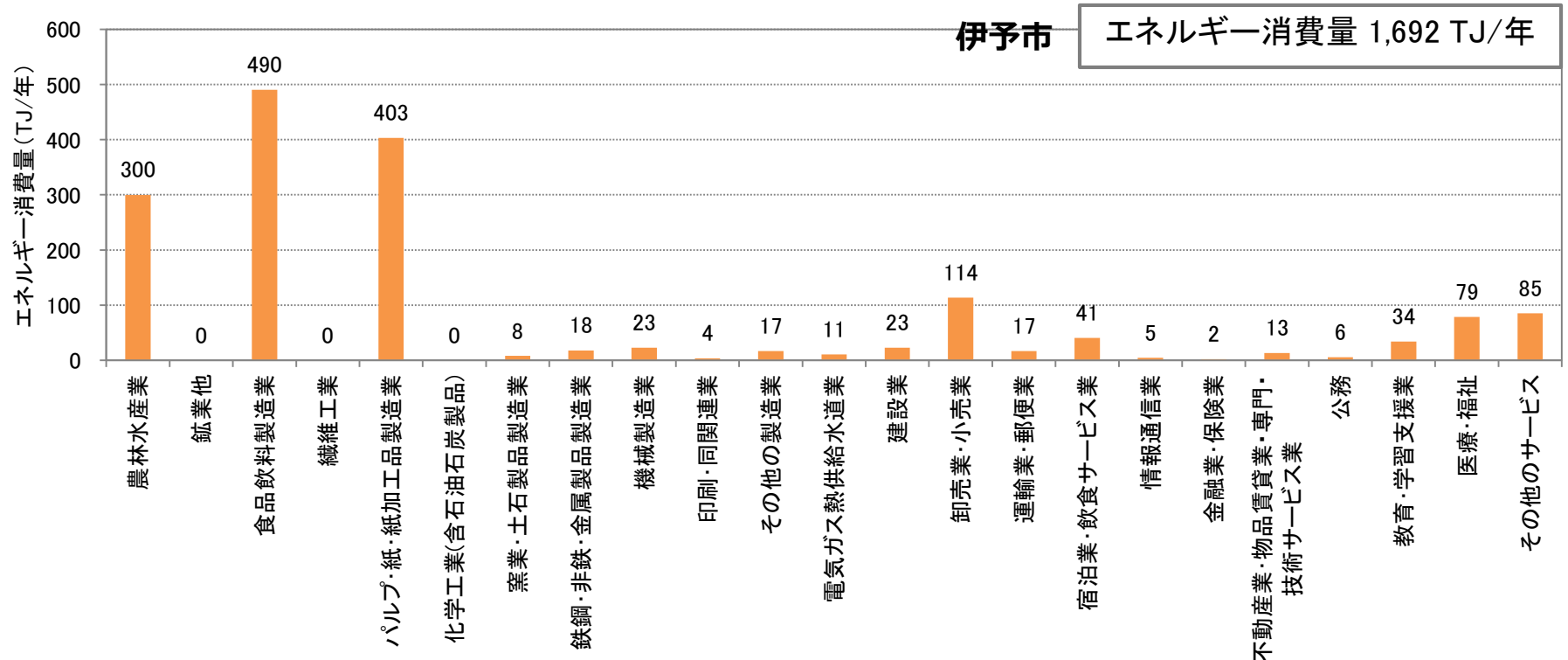
(1) 産業別エネルギー消費量

分析の視点

- エネルギー消費量は、産業によって生産量 1 単位当たりのエネルギー消費量が異なるため、必ずしも生産量が多い産業がエネルギー消費量が多いとは限らない。
- ここでは、地域のエネルギー消費量の規模を産業別に把握する（下図）。

伊予市の産業別エネルギー消費量は、食品飲料製造業のエネルギー消費量が最も多く、次いでパルプ・紙・紙加工品製造業、農林水産業の順となっている。

産業別エネルギー消費量



(2) 産業別エネルギー消費量構成比

分析の視点

- 産業別のエネルギー消費量は、地域が得意とする産業が何かによって異なり、地域の産業構造によるものである。
- ここでは、地域のエネルギー消費量の産業別構成比を全国平均と比較して、どの産業のエネルギー消費量が多いかを把握する(下図)。

伊予市の産業別エネルギー消費量の構成比は、食品飲料製造業のエネルギー消費量の割合が最も多く、次いでパルプ・紙・紙加工品製造業、農林水産業の割合が高い。

産業別エネルギー消費量構成比

